

中小企業あきた

- 1 県内初となる組合運営の保育園が開園 1
～協同組合横手卸センター～
- 2 平成30年度 秋田県の中小企業支援施策をご紹介します 2
- 3 通常総会提出議案を審議 3
～平成30年度第1回理事会を開催～

- 景況レポート3月分 4
- 組合相談コーナー 6

- 話題の広場
- 中央会事業より 7
- アラカルト 9
- 支援団体活動レポート 9
- インフォメーション 9
- 中央会職員コラム 10



TOPICS 1 県内初となる組合運営の保育園が開園

トピックス SPECIAL FEATURES

～協同組合横手卸センター～



[明るい光が差し込む保育園]

協同組合横手卸センター(和泉健一理事長)は、国の助成金を活用し、組合が経営する保育園としては県内で初となる「みんなのみらいよこて卸町園」を組合の敷地内に新設し、4月2日(月)に開園を迎えました。

保育園では、0歳児から5歳児まで(定員19名)を対象に組合員企業に勤務する従業員の子供を優先的に受入れ、他の保育園等に比べて保育料を安く設定することで、組合員の福利厚生充実を図りたいと考えています。

組合では、以前から団地内保育所の設置構想があり、組合員へのアンケート調査で潜在ニーズがあることが分かった上、国の助成制度についての情報を得たことが事業化への後押しとなりました。

組合の木村事務局長は「近隣には住宅地やアパートなども多く、子育て家庭に園が認知されるよう、周知に力を入れていきたい。団地内に保育所を構えることで組合員企業の魅力向上

にも繋がることから、人材確保の面でも貢献できると考えている。まだ先の話だが、将来卒園児が卸団地に働きに戻ってきてもらえることも期待したい」と話しています。

組合が活用した企業主導型保育事業助成金は、待機児童の受け皿となる保育所整備を目的に国が平成28年度から開始し、新たに保育所を開設する企業や連携企業体(組合等)が認定を受けることで整備費用の3/4が助成される制度です。

他県においても同制度を活用し、保育所を開設する商店街や卸・工業団地組合等が徐々に出始めるなか、県内の組合で初の保育所開設事例として今後の運営に期待が高まっています。組合では人材確保に向けた事業や働きやすい職場環境の整備など、組合員企業の経営を補完する共同事業を引き続き実施していくとしています。